

比較により新たな価値観に気付くことを通して、 「よりよい生活」を探究する家庭科の学習

I 家庭科研究の方向性

1 主題設定の理由

家庭科においては、児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践することが大切です。その結果を評価・改善し、更に家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学びも重要になります。

これまでの本校の研究では、実践的・体験的な活動及び言語活動の充実による課題解決を通して、家庭や地域に積極的に関わる態度の育成を目指してきました。日常生活から課題を設定する必要感や次の課題への意欲が高まった一方で、知識及び技能を活用して課題を解決する力の育成や、家庭において継続的に実践することへの課題が残りました。継続的な実践に至らなかった一因は、日常生活の営みを断片的に切り取った題材構成にあると考えられます。家庭生活において、日常生活の営みは全てが相互に関連し合っていることから、その関連性に目を向け、日常生活の営み方を工夫し続けたいような題材構成の工夫が必要だと考えました。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。家庭科における探究の姿として、「家庭科で身に付けた力を家庭生活で活用し、発展・応用させ工夫し続けること」と押さえました。

そこで、研究主題を「比較により新たな価値観に気付くことを通して、『よりよい生活』を探究する家庭科の学習」と設定しました。「比較により新たな価値観に気付く」とは、複数の生活事象において、「おいしい」「心地よい」などの視点を設けて比較することにより、児童が家庭及び地域の生活の営まれ方や特性に気付く、自分にとっての「よりよい」と感じる価値観を見いだす学習を表します。「よりよい生活を探究する」とは、知識及び技能を獲得する過程において、よりよいと感じる生活の在り方を徐々に変化させ、高めていくことを表しています。「よりよい生活」とは、知識及び技能を活用して営む家庭生活の中で、形や定義がなく、よいと感じる尺度が個別に異なる生活であり、家庭科の題材全体を通して常に求めていくものです。

2 目指す児童の姿とその具体

- 家庭及び地域の生活に主体的に関わり、「よりよい生活」について考える児童
- 家庭科で身に付けた知識及び技能を、家庭及び地域での実践において活用し、定着させ、高め続ける児童

「家庭及び地域の生活に主体的に関わり」とは、家庭科の学習の中で、自分の家庭及び地域の生活を想起しながら学習することを指します。「『よりよい生活』について考える」とは、家族及び地域の人々が営む家庭及び社会の中で、便利さ、快適さ、質の高さ、など自分にとって価値が高いと感じるものを追究することです。「家庭及び地域での実践において活用し」とは、教師が活用の場を設定しなくとも、児童が自ら実践したいという意欲で家庭及び地域で実践することを表します。「定着させ、高め続ける」とは、家庭科で身に付けた知識及び技能を活用し続けることで定着させ、「よりよい生活」に適したものへと発展させていくことを表します。

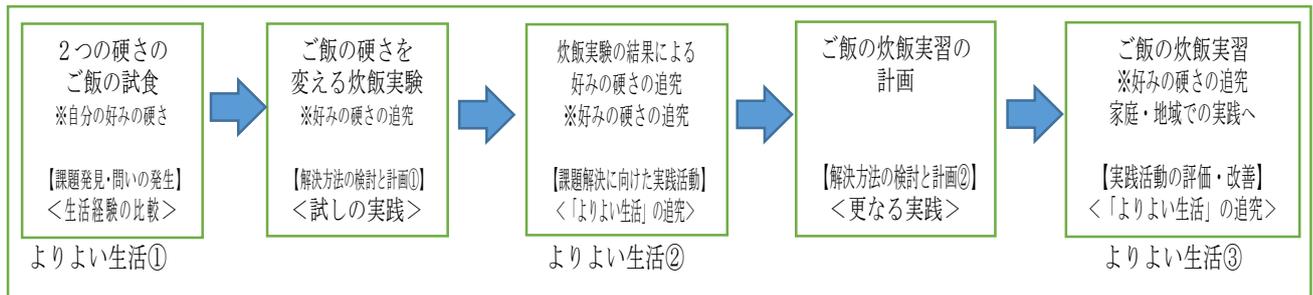
II 研究内容の具体

1 「よりよい生活」を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫

児童にとって日常生活の営みは、育ってきた家庭及び地域そのものを示し、自己の家庭及び地域の環境を見つめるだけでは、「よりよい生活」に対する自分の考えに気付きにくいと考えます。自分が目指す「よりよい生活」にはどの構成要素が関わるのかを、他者との比較や科学的根拠により明らかにしていくことで、「よりよい生活」を見付けることができると考えます。

そこで「生活経験の比較・試しの実践・『よりよい生活』の追究・更なる実践・『よりよい生活』の追究」の流れで題材を構成しました。また、学習の中で活用する知識及び技能について、5年生では単一の条件下で、6年生では複数の条件下で比較・検討できるように配置することで、2年間の学びを系統的にできると考えました。

○題材の学習過程例（第5学年 食べて元気に「ご飯を炊いてみよう」）



2 「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫

児童が生活の中から課題を発見するためには、自分にとって「よりよい生活」だと感じる構成要素は何かを明らかにする必要があります。また、「よりよい生活」のイメージは、学習を通して常に変化し、題材の導入から終末に向けて、変化し続けていくと考えられます。家庭科の学習において、「よりよい生活」が変化し続けた過程やその根拠、児童の思いも重要であると考えます。そこで、「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫を考えました。

○「よりよい生活」の構成要素の整理

- ・複数の生活事象の提示（自己の生活経験との比較）
 - ・構成要素と知識及び技能との関連に対する記述（生活経験に対する考えの変化）
- （例）第6学年「いためて作ろう朝食のおかず」
- ・いためる調理における栄養、味付け、色どり、エコ、短時間調理などの構成要素

○様々な生活事象の認知

- ・1単位時間内での複数回の対話による自己の生活経験との比較
- ・家庭での聞き取り調査による様々な生活事象への思いの理解

3 「よりよい生活」を追究する意欲につなげる振り返り

家庭科の学習で身に付けた知識及び技能は、児童が進んで自己の家庭において活用しようとすることで定着が図られていきます。特に、家庭においても「よりよい生活」を追究することで、知識及び技能を活用する機会が増えると考えます。そのためには、家庭科の学習時間内で感じたことを、終末に振り返りとして記述し、家庭での実践を想起させながら、実践し続けたいという意欲を高めることにつなげたいと考えました。

○振り返りの視点

- ・自己の振り返り～「よりよい生活」の構成要素について思ったことや感じたことを振り返る。
- ・他者を通じた振り返り～友達の考えを知り、思ったことや感じたことを振り返る。
- ・題材内で学びを積み上げる振り返り～学びを蓄積し、自分の成長を振り返る。

<1年次研究の重点>

- ・「よりよい生活」を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫
- ・「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫

Ⅲ 研究実践

5年生実践 『食べて元気に～おいしいご飯とみそ汁を作ろう～』

実践のテーマ：みそ汁の風味の違いを比較することで、

だしの役割を理解する学習

1 研究授業のねらい

本題材では、食事の栄養特性や家族の嗜好に気付き、ご飯の炊き方やみそ汁の作り方を身に付けることを目的としています。特に、おいしいと感じる炊飯方法やみそ汁のだしや実の工夫、自分や家族の嗜好に適した調理方法の追究により、自分が調理の担い手となるために必要な知識及び技能を身に付けようとする実践的な態度の育成をねらいとしました。家庭生活との結び付きを強めるために、生活の営みに係る見方・考え方のうち、「生活文化の継承・創造」の視点を取り入れて、題材を構成しました。

指導に当たっては、硬さや風味の異なる料理を比較することを通して、好みの硬さのご飯やおいしいと感じる風味のみそ汁を見いだすことを重視しました。児童が、家庭や給食、外食などで出会う料理によって育まれた味覚の中で、自分自身がおいしいと感じている料理には個人の嗜好があることを知り、我が家の伝統の味をつくり出すという題材の課題を設定しました。次に、ご飯の炊飯条件やみそ汁の調理要素の1つであるだしの工夫を実験により追究することを通して、自分なりにおいしいと感じるご飯やみそ汁の味を見いだす力の育成を図りました。さらに、「生活文化の創造」という視点で、我が家の伝統の味に気付き、自分がおいしいと感じる要素を取り入れたご飯とみそ汁を家庭の食卓に取り入れようとするので、家庭生活に積極的に関わろうとする態度を育みました。

2 題材の指導計画

次	段階	時間	学習内容と主な学習活動	『よりよい生活』を追究する児童の姿
第一次	学 ぶ め あ て を も つ	①	○なぜ食べるのか考える。 ○題材の課題を設定する。 我が家の伝統の味に挑戦！～おいしいご飯とみそ汁を作ろう～	
		② ③ ④	○五大栄養素の働きを知る。 ○3つの食品グループとその働きを考える。	食べるという行為について、健康や成長に関連付けながら、課題を設定する姿
	確 か な 追 究 ・ 解 決	⑤	○ご飯の炊き方を知り、条件を変えた場合の炊き上がりの違いを調べる。(演示による対照実験) ・水の量や火加減を変えた4種類の鍋の炊飯中の様子や炊き上がりの違いを知る。	炊飯の構成要素と炊き上がりの変化を知ろうとする姿
		⑥ ⑦	○ご飯の炊き方を追究する。 ○みそ汁の構成要素であるだしの役割を理解する。	炊飯の構成要素を工夫して、好みの硬さのご飯を見いだす姿
⑧ ⑨ ⑩		○だしを工夫して、みそ汁の作り方を追究する。 ・昆布とかつお節を合わせて使いたい。 ・煮干しのみそ汁を作りたい。 ○ご飯とみそ汁を作り、調理の成果と課題を整理する。	みそ汁の構成要素と風味の変化を知ろうとする姿 だしを工夫して好みの風味になるみそ汁を見いだす姿	
まとめ	⑪	○友達と味見し合い、自分と異なる考えで調理したご飯とみそ汁を味わうことにより、さらにおいしいと感じるご飯の炊き方やみそ汁の作り方へと発展させるための計画をする。	友達との交流により、好みの違いを知り、ご飯とみそ汁のおいしさと追究しようとする姿	
			ご飯の炊き上がりの硬さやみそ汁のだしの取り方を工夫して、おいしいと感じるご飯とみそ汁を調理し、家族に味わってもらおう。	

3 本時の学習

(1) 本時の目標

様々なだしを使ったみそ汁の比較を通して、だしの役割を理解する。

(2) 本時の展開 (11 時間扱いの 7 時間目)

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>1 2つのみそ汁を味わい、風味の違いを比較しながら自分がおいしいと感じるみそ汁について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aは、味が濃い感じがしておいしい。 ・ Bは、だしの香りや味が強くておいしい。家庭の味に近いから好き。 <p>2 課題を確認し、解決の見通しをもつ。</p>	<p>◇よりよいみそ汁を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫 研究視点 1</p> <p>○Aは水+みそ、Bは混合だしのみそ汁 ※汁の実は、どちらも豆腐とする。</p> <p>○2つのみそ汁の違いを考えさせ、材料を提示し、だしがあるとおいしいと感じる児童が多いことを確認する。</p>
<p>みそ汁のおいしさについて考えよう。</p>	
<p>3 みそ汁のだしを知り、出来上がりの味の違いから、自分がおいしいと感じるみそ汁のだしについて考える。</p> <p>①講師が作るみそ汁 昆布 (南茅部産)、煮干し (小さめ)、かつお (鹿児島県枕崎の1本釣りのかつお節)</p> <p>②煮干しだしのみそ汁 (大きめの煮干し)</p> <p>③昆布だしのみそ汁 (礼文産利尻昆布)</p> <p>④かつおだしのみそ汁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ④かつおだしがおいしい。 ・ 煮干しだしは魚の味が濃くておいしい。 ・ 自分でみそ汁を合わせてみたら、おいしいと感じた。 ・ ①の全部合わせただしがおいしい。 ・ 人それぞれ、おいしいと感じるだしが異なる。 <p>4 みそ汁のおいしさについての考えを全体交流し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昆布のみそ汁は塩辛いと感じた人が多い。 ・ 合わせただしを使ったみそ汁も香りや味の深さがあっておいしい。 	<p>○だしの種類を確認する。(昆布、煮干し、かつお節、干し椎茸、魚介類など)</p> <p>○ほんだしをだしとして児童が挙げた場合、ほんだしの成分 (原材料名の表示より、多い物から食塩、砂糖類、かつおエキスの順となっている)を確認して、本時に取り上げるみそ汁のだしを確認する。</p> <p>○水 (家庭科室の水道水 900mL)、みそ (合わせみそ 90g)、実 (塩蔵わかめ、男爵のじゃがいも)は統一された材料を用いる。</p> <p>○みそ汁を作る前のだしを教師用調理台の上に原材料と共に置いておき、自由に味見できるようにする。</p> <p>◇「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫 研究視点 2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>様々なだしを使ったみそ汁の比較を通して、だしの役割を理解している。(発言、プリント)</p> </div> <p>○講師からうまみ成分の一例として、イノシン酸とグルタミン酸の相乗効果について伝えてもらい、科学的な風味の変化を実感させる。</p>
<p>みそ汁のおいしさは… (だしによって変わる、だしで風味を変えることができる)。</p>	
<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>○3点を参考にして振り返りを書く。</p> <p>①みそ汁のおいしさについて考えたこと</p> <p>②友達の考えを聞いて思ったこと</p> <p>③自分を作りたいみそ汁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 味見をしてみたら、かつお節のみそ汁と昆布だしのみそ汁が好きだったので、2つを合わせて作りたい。 	<p>◇「よりよい生活」を追究する意欲につなげる振り返り 研究視点 3</p>

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

○比較しながら「よりよいみそ汁」について考える活動を通して、だしの役割を学ぶ児童の姿。

4 授業の実際

「よりよい生活」を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫

本時では、よりおいしいと感じるみそ汁の味について、比較を通して考える場面を2度設けました。導入では、だし有りとしだし無しのみそ汁を味見により比較し、どちらをおいしいと感じるのかについての考えを交流しました。だしの味を好む児童もいれば、だしの味を好まない児童もいましたが、だしによって風味が変わることを、共通理解することができました。展開場面では、だしの味を更に細分化し、煮干し、昆布、かつお節の単一だし汁と、3種類を合わせた混合だしを味見して比較し、おいしいと感じる味を見付ける活動を通して、だしによる風味の違いを感じ取る場面を設けました。1時間の中で複数回の比較を設定し、おいしいと感じるみそ汁について考えたことで、自分にとっておいしいと感じる味は、家庭の味に近いものなのか、家庭の味と異なるものも好むのかを知りながら学習を進めました。みそ汁の味を比較する活動を通して、児童はおいしいと感じる味には正解がないことに気付き、だしや実、みそ、水等を工夫して風味を変化させ、様々なみそ汁を作り、味わいたいという考えをもちました。



【よりおいしいみそ汁について考える児童の様子】

「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫

本時では、「おいしいと感じた味」「友達との交流」「みそ汁作り」の3点の視点から自由に選択して、学習の振り返りを記述しました。A児の記述からは、味の組み合わせによって生まれる新しい味に興味をもったことや、友達と交流して味の感じ方の違いに触れ、自分の好みの味を更に探究していく意欲が高まったことが分かりました。B児の記述からは、だしの種類によって独自の味が出てくることに気付いたことから、家庭で味わっていたみそ汁のだしに興味をもったことが分かりました。

最後、先生からかかっていた通り味が組み合わせることでも新しい旨みが生まれるなどそこをおもしろく、友達と交流することで他人の味も感じることができ、知れてコミュニケーションとれ、自分のこの味の味をもっと知りたいと思いました。

【A児の振り返りシート】

最初は味がちがうのはみその種類で変わると思っていたけれど、「うまみ」や「だしの種類でそれにかかない味が出る」とわかって家のだしを調べたいと思った。

【B児の振り返りシート】

家庭の味を考える場面を設けなくとも、学習で「よりおいしい味」を求めながら複数の味を比較したことによって、家庭やその他の場面で味わってきたみそ汁のだしに目を向けることにつながりました。従来の家庭科の学習では、発問によって家庭に目を向けることが多くありましたが、今回のように学習材を工夫することによって、児童が主体的に家庭生活の営みに目を向けられると考えられます。また、B児の記述のように、意欲の高まりを振り返りとして記述し、蓄積することによって、前時までの考えを確認し、学習がつながりやすくなることが分かりました。

IV 1年次研究の成果と課題

家庭科では、研究テーマを「比較により新たな価値観に気付くことを通して、『よりよい生活』を探究する家庭科の学習」と設定し、「『よりよい生活』を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫」「『よりよい生活』の追究過程を可視化する指導の工夫」「『よりよい生活』を追究する意欲につなげる振り返り」の3点を中心に研究を進めてきました。

1年次研究では、「『よりよい生活』を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫」と「『よりよい生活』の追究過程を整理する指導の工夫」を重点として研究を進めてきました。

1 研究の成果

- 比較を通して学習対象と出会うことにより、児童は自己が育ってきた家庭環境や地域の生活に目を向けるきっかけができ、家庭科の学びと家庭及び地域の生活とつながりを実感しながら学習を進めることができました。
- よりおいしいと感じる味について自分の考えを整理したり、交流により友達の考えを聞いたりすることによって、よりよいと感じる根拠となる知識及び技能の大切さを実感しながら学ぶことができました。
- 比較によって見つけた自分の価値観を振り返ったり、他者との感じ方の違いから考えたことを振り返ったりしたことにより、家庭及び地域での生活に目を向け、家庭科の学習以外においても学びを活用したいという思いをもつことにつながりました。

2 今後の課題

- 比較することについて、児童が家庭及び地域に目を向けるためには、どのような視点を与えることが効果的なのかについて検証し、児童の実態に応じて、題材構成を吟味していく必要があります。
- 家庭科の学習と家庭生活とのつながりについて、児童がどの程度実感できたのかを、質的にも量的にも分析できるような検証の仕方を検討する必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年7月
- 初等教育資料No. 971 「内容『A家族・家庭生活』における家庭科の授業づくり」
文部科学省 東洋館出版社 平成30年9月
- 初等教育資料No. 985 「内容『B衣食住の生活』における家庭科の授業づくり」
文部科学省 東洋館出版社 令和元年10月
- 小学校家庭科の授業づくりと評価 筒井恭子編著 明治図書 平成24年2月
- 生活を科学し、実践する力を育てる授業づくり 子どもがいきる家庭科
吉原崇恵編著 開隆堂出版株式会社 平成25年6月
- 題材設定から評価までバッチリ! 小学校家庭科授業づくり ベストモデル&ワークシート
筒井恭子編著 明治図書 平成26年10月
- 改訂版 小学校の教師をめざす人のための「小学校家庭科」指導法テキスト
古田豊子編著 開隆堂出版株式会社 平成27年9月
- 楽しもう家政学 あなたの生活に寄り添う身近な学問
『家政学のじかん』編集委員会編集 開隆堂出版社 平成29年4月
- 新学習指導要領解説 小学校家庭
長澤由喜子編著 開隆堂出版株式会社 平成29年10月
- 小学校 新学習指導要領 ポイント総整理 家庭
鈴木明子編著 東洋館出版社 平成29年10月
- コンピテンシー・ベースの家庭科カリキュラム
鈴木明子編著 東洋館出版社 令和元年7月